

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E113B008		幼児教育方法論 (Methodology for Early Childhood Education)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用	前期	水1	日本語			単独						
担当 教員	氏名 永田 誠														
	E-mail m-nagata@oita-u.ac.jp 内線 7559														
授業 の 概 要	教育実践において、子どもに働きかける教育者・保育者の意図や教育観は、活動の展開のみならず子どもの育ちや価値形成に大きく影響を与えるものである。特に、幼児期における教育は、遊びや生活の中から、子どもが体験的に学ぶことで、望ましい発達と成長を遂げていく。本講義では、乳幼児期における発達の特徴を踏まえながら、幼児期の教育・保育の指導計画と指導法に関する基礎を学ぶとともに、学習者自身が実践を具体的にイメージできるように計画の作成、遊びや生活を通じた総合的な指導方法ならびに評価の視点を学ぶことを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	幼児教育・保育における教育方法の基本原則を理解する。														
目標2	各年齢段階における子どもの発達の特徴を踏まえた指導計画を作成することができる。														
目標3	子ども集団全体における具体的な指導方法と環境構成の視点を理解する。														
目標4	幼児教育者としての自己の実践に対する省察と改善に意欲的に取り組むことができる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							2		3		3		2		
授業の内容															
1	幼児教育・保育の基本的理解														
2	幼児教育の基本理念(1) 幼稚園教育の意義と方法														
3	幼児教育の基本理念(2) 幼稚園教育要領等からみる教育・保育の方法														
4	幼児教育の基本理念(3) 「児童中心主義」と「児童の最善の利益」														
5	幼児教育の基本理念(4) 「環境を通しての保育」と「遊びを通じた総合的な指導」														
6	幼児教育の基本理念(5) 幼児教育で育みたい資質・能力と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」														
7	幼児教育における教育課程・指導計画と保育の実践(1) 教育課程編成の意義と指導計画														
8	幼児教育における教育課程・指導計画と保育の実践(2) 教育課程・指導計画と保育の実践														
9	幼児教育における教育課程・指導計画と保育の実践(3) 幼児の遊びと生活(情報機器及び教材の活用を含む。)														
10	幼児教育における教育課程・指導計画と保育の実践(4) 保育者の援助と環境構成(情報機器及び教材の活用を含む。)														
11	幼児教育における教育課程・指導計画と保育の実践(5) 保育観察の振り返り(情報機器及び教材の活用を含む。)														
12	保育計画の立案と相互評価・発表(1) 指導計画の立案・作成(情報機器及び教材の活用を含む。)														
13	保育計画の立案と相互評価・発表(2) 保育指導案の相互添削(情報機器及び教材の活用を含む。)														
14	保育計画の立案と相互評価・発表(3) 保育指導案の発表と相互討論(情報機器及び教材の活用を含む。)														
15	質の高い幼児教育・保育に向けた保育者の専門性の向上														
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認	・本講義では附属幼稚園での保育参加観察を実施する。				工 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換	・多様な見方に気づくため、観察記録の作成・発表、受講生間の相互討													
	C:応用志向	議を通じた自己ならびにグループでの振り返りを重視する。													
	D:知識の活用・創造														
授 業 時 間 外 学 修 の 内 容 と 想 定 時 間	準備学修	対応する箇所の教科書の内容の精読(5h) 保育観察記録・保育指導案の作成ならびに考察(10h)													
	事後学修	講義内容の振り返りによる知識の定着と課題レポートの作成(30h)													
	想定時間合計	45													
教科書	小笠原圭・植田明編著『保育の計画と方法』(保育・教育ネオシリーズ3)同文書院,2018年(ISBN:978-4810314687)														
参考書	・文部科学省・厚生労働省・内閣府『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』チャイルド本社、2017年(ISBN:978-4805402580) ・文部科学省『幼稚園教育要領解説<平成30年3月>』フレーベル館、2018年(ISBN:978-4577814475)														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業課題レポート	50%										
	学期末レポート	30%										
	授業内での活動，課題・討議に関する取り組み状況等	20%										
注意事項	本講義は，保育参加観察や保育指導計画の作成・発表といった演習形式にて進めるため，受講生の積極的な授業参画を望む。 授業・課題への取り組み状況などは，成績評価に厳密に反映する。											
備考	履修者の関心ならびに授業の進捗状況によって，講義内容・計画を変更することがある。											
リンク	URL											